

新春特大!  
大型プロジェクト案件紹介

# 過密するタンソンニャット国際空港と ロンタン新国際空港計画の行方(後編)



取材協力、資料提供: JICAベトナム事務所  
日本空港コンサルタンツ(JAC)

前回に続き、JICAベトナム事務所様及び日本空港コンサルタンツ様のご協力による空港シリーズの後編です。

タンソンニャット国際空港は、増大する旅客需要に対応するために国際旅客ターミナル及び、付帯施設が2007年に完成しており、2000万人規模の旅客に対応できる国際空港となっていることは、前回お伝えしたとおりです。

しかし、ベトナムの旅客需要の伸びは、予想を上回るペースで進んでおり、タンソンニャット国際空港の処理能力が限界を迎える2020年を目処にベトナム政府はロンタン国際空港をドンナイ省ロンタン地区に建設することを決定しています。

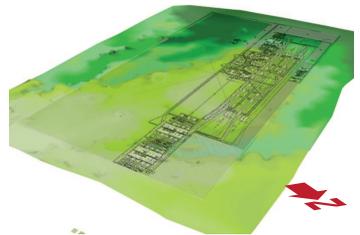
今回はこのロンタン国際空港計画についてお伝えします。

タンソンニャット国際空港は急増する航空需要に対応するために2007年に国際線旅客ターミナル及びその付帯設備が建設されました。

しかし、航空需要の伸び率は2003年当時の予測をはるかに上回るペースで増加しており、早急に対応することが必要となっています。しかし、タンソンニャット国際空港はホーチミン市内に位置しており、周辺の都市化に伴う騒音問題などを考慮すると、タンソンニャット国際空港を拡張することは実現が難しい状態です。

更に2010年のホーチミンエリアの航空需要予測によると同エリアの旅客需要は国内線・国際線を合わせると2020年には2500万人を突破し、2030年には4400万人を超える見通しになっています。

地形3D上の施設配置図

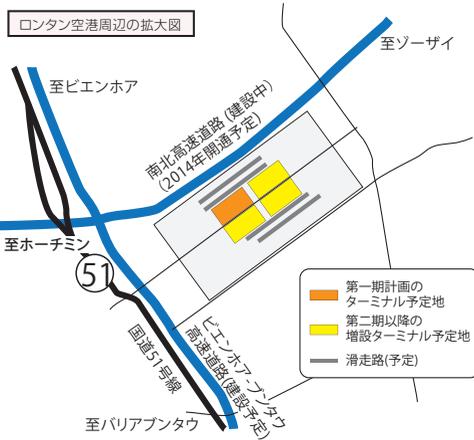


また、ベトナム航空は2015年には保有機材数を倍増させ、2017年までには新たに17都市への国際路線就航を目指しています。しかし実際問題とし駐機スポットの不足などから既存の空港設備では対応しきれない可能性があり、ベトナムの航空需要の成長を促進するためにも新たな国際空港の建設は必要不可欠なものと考えられています。

但し、ロンタン国際空港が完成してもタンソンニャット国際空港からの全面移転とするには、課題が多くあるため、ロンタン国際空港を東南アジアのハブ空港と位置づけ、タンソンニャット国際空港にはその補助的な役割が期待されています。

そこで、ベトナム政府はホーチミン市から東へ35kmに位置するドンナイ省ロンタン地区を新国際空港建設候補地として選定しました。

この新空港建設予定地とされるドンナイ省ロンタン地区は、ドンナイ省とバリア・ブントウ省を結ぶ国道51号線沿いに位置しており、ロンタン牧場などで有名な地域です。



ホーチミン近郊地図(上、下共):各種資料を参考にACCESS編集部作成

## ✕ 第2期 2035

2035年を対象年とし、2030年を目処に完成する施設で、4000m長の滑走路はクローズパALLELの1組に加えて、オープンパALLELの1本が建設されます。また、40万㎡の旅客ターミナルビルを新滑走路側に建設します。5200万人余りの旅客、140万トン以上の貨物を取り扱う能力を有する計画です。

## ✕ 最終期 20XX

対象年を定めず、旅客1億人、貨物500万トンを取り扱う能力を持つ施設を整備するステージです。実際には第2期と最終期の間にはいくつかの整備ステージが設置される可能性もあります。時期については今後の需要動向を検討しながら決定される予定になっています。

滑走路はクローズパALLEL滑走路が2組、オープンパALLELに配置され、40万㎡の旅客ターミナルビルは4ユニット建設され、5000haの敷地全体に広がる計画です。

ロンタン国際空港の建設計画については、数年前から現地のニュースなどにより耳にしていたのですが、いよいよその実現が近づいているのを今回の取材を通して感じる事が出来ました。

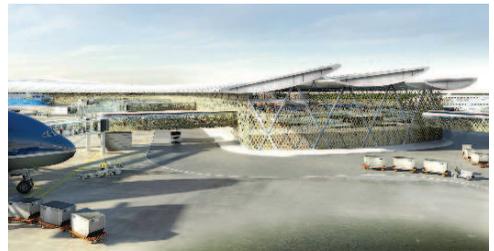
ホーチミン市及び近郊の都市でも新しいビルの建設、橋や道路の整備、ニュータウンの建設など、急速に発展するベトナムを肌で感じられることが多くありますが、中でもこのロンタン国際空港はその規模からして大いに期待させられるプロジェクトです。ベトナムが、東南アジアの中で中心的な役割を果たしていくためにも、是非、少しでも早くこのロンタン国際空港の実物を目にしたいと期待しています。

現在建設が進められている東西ハイウェイと南北高速道路のホーチミン・ゾーザイ間が完成するとホーチミン中心部からもほぼ直線にロンタン国際空港予定地へ向かうことができるようになります。

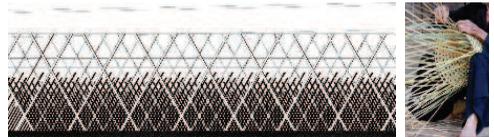
ロンタン国際空港は、ホーチミンエリアの航空需要の増加にあわせ基本的には以下の3段階で開発が進められる計画になっています。

## ✕ 第1期 2020

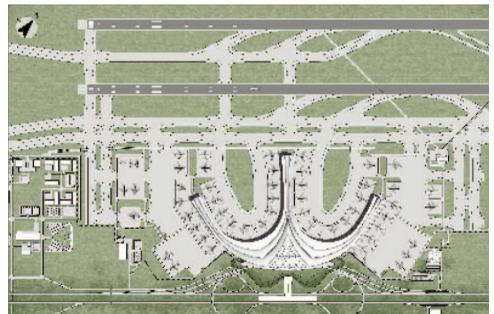
2030年を対象年とし、2020年を目処に完成する施設で、4000m長のクローズパALLEL滑走路が1組(2本)、40万㎡の旅客ターミナルビル、51スポットの旅客ローディングエプロンなど2500万人の旅客と77万トンの貨物を取り扱う能力を有する計画です。



竹籠をモチーフにした外装



ベトナムの特産品である竹籠を壁面のモチーフにと考えている。



旅客ターミナル概略設計